

平成 24 年度 四国ブロッククラブミーティング2012 報告

期日：平成24年12月1日（土）～12月2日（日）

会場：高知県教育センター分館

内容：

<1日目>

(1)活動報告

- ・紫雲総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会【香川県】
- ・土佐町健康スポーツクラブ【高知県】

(2)事例発表

- ・クラブ香美ING【高知県】 発表者：竹崎耕司 氏（クラブマネジャー）
- ・清流クラブ池川【高知県】 発表者：若藤美紀 氏（ジェネラルマネジャー）

(3)グループディスカッション

(4)グループディスカッションまとめ

<2日目>

(1)スポーツ交流

- ・はばたんカンフー【香川県】 山口大輔 氏（とらまるクラブ “ONLY ONE”）
- ・3B体操 【徳島県】 松本京子 氏（(公社)日本3B体操協会徳島県支部）
- ・ボルダリング 【愛媛県】 西田六助 氏（うわじまアウトドアスポーツクラブ）
- ・エアロビクス 【高知県】 中山真紀 氏

(2)基調講演「総合型地域スポーツクラブの新たな可能性」

- ・講師：山中裕文 氏（クラブリンク JAPAN 理事長）

(3)ランチミーティング

(4)グループディスカッション

①地域密着型／一ノ谷スポーツクラブ【香川県】

発表者：石川 和子 氏（事務局員）

②大学・地域・医療の連携／阿南市総合型クラブ×MFプロジェクト【徳島県】

※MF：メディカルフィットネス

発表者：行實 鉄平 氏（徳島大学大学院SAS研究部准教授）

③都市型／西条中央スポーツクラブ【愛媛県】

発表者：森 達正 氏（クラブマネジャー）

④NPO取得／NPO法人総合クラブとさ【高知県】

発表者：田井 直子 氏（クラブマネジャー）

(5) グループディスカッションまとめ

【概要】

1 日目は創設支援クラブを対象とし、創設クラブに活動や現状報告を行ってもらい、自己点検を行うとともに、創設 1 年目は創設 2 年目の活動報告を、創設 2 年目は設立済クラブの事例発表を参考に多くの情報を得て、設立に向けての着実な準備と今後の活動を推進してもらうことを目的とした。

2 日目は自立支援・クラブマネジャー設置支援クラブと県総合型クラブ連絡協議会加入クラブを主な対象とし、四国ブロック内における「総合型地域スポーツクラブの新たな可能性」について、先進クラブ関係者からの情報提供やそれに基づく意見交換等により、クラブの課題を明らかにし、問題解決を図るための情報を共有するとともに、クラブ間の交流や各県連絡協議会間の連携・協力体制を一層促進させ、クラブ支援のためのネットワークを強化することを目的とした。

【討議内容】

<1 日目>

○活動報告○

まず、創設 2 年目の紫雲総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会（香川県）が報告を行った。高松市中心地の紫雲地区人口約 3 万人を対象としており、平成 23 年度から設立準備を進めるが、地域社会からの活動の評価や認知度が低く、活動の幅もまだ狭いことから、活動施設の確保やスポーツ推進委員との連携、会員確保や運営メンバー不足等の問題を抱えているとのことだった。他方、この地域は文豪・菊池寛の生誕地であること、香川大学が活動地域内にある等、地域の特色を生かすことも含め、問題意識を十分に持ち設立に向け取り組んでいることが伺えた。

続いて、同じく創設 2 年目の土佐町健康スポーツクラブ（高知県）が報告を行った。四国の水瓶こと早明浦ダムのある人口 4,000 人強の土佐町全域を対象とし、会議を重ねる他、平成 24 年度は教室やイベント等も充実させている。中でもダム湖面を利用したウォータースポーツは、このクラブの特徴になるとともにスポーツ理解へ繋がると見込まれる。今後の課題としては、クラブマネジャーや指導者の確保、クラブの認知度向上、自主財源の確保が挙げられたが、設立に向け、「まちづくりは人づくり、人づくりは健康づくり、健康づくりはスポーツから」をテーマに着実に取り組んでいることが伺えた。

○事例発表○

設立済クラブの活動内容を創設クラブの参考にしてもらうため、クラブ香美 I NG と清流クラブ池川の高知県 2 クラブによる事例発表が行われた。

クラブ香美 I NG は設立後 2 年目のクラブで、「楽しいところに人は集まる」「Impossible is Nothing! 地域の思いはクラブの能力を超える」をモットーに、独自性を持ちつつも身の丈に合った活動を展開しているクラブである。

今回の発表では、地域住民に対するニーズ調査の中で地域に流れる惣部川での釣り大会の要望を受け、地元漁協とタイアップしてのイベントを実施した事例が挙げられた。漁協が元々持っていた地域貢献を行う希望とのタイミングが合い、イベントを実施できたことは、「地域に貢献し地域に支えられるクラブ」としての可能性を広げた印象を受けた。この事例は偶然ではなく必然的に起こったこととして、創設クラブの参考になっただろう。

清流クラブ池川は創設後 6 年目で、身の丈に合った活動をしながら発展してきたクラブである。対象地域である池川地区の人口は毎年減少しており、高齢化率は 54%と深刻であるが、地域の各集会所で健康運動の出前教室を行う等、クラブの活動を通して高齢者の健康を目的に地域住民が楽しく触れ合い、過疎化地域でありながら会員数は増加していることは、良い事例となった。

一方で両クラブが抱える課題として、活動拠点の確保、助成金がない場合の運営資金、指導者やボランティアの確保、広報活動等が挙げられ、創設クラブの課題と共通する点も参考になった。

○グループディスカッション○

創設クラブ毎に分かれて、現在の問題点、悩み、クラブの強み、コミュニティとの関わりをテーマにディスカッションを行った。

①**紫雲総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会**は、菊池寛等地元の著名人を生かしたイベントを行い、クラブが抱える活動の評価や認知度の問題解決に繋げることや、地域内にある香川大学と地域再生の核となる大学づくり（COC）構想の一環として連携し、活動施設やボランティアの確保、新たな活動の拡大に繋げること等の提案がされた。

②**土佐町健康スポーツクラブ**は、活動報告及び清流クラブ池川の事例発表を中心とした協議を行った。土佐町での総合型クラブ設立に向け、スポーツ振興・健康づくり事業をこれからクラブが担うのだという前向きな意識が感じられた。また、清流クラブ池川と良く似た地域性でもあることから、出前教室や高齢者の居場所づくり等の事業にも今後取り組みたいと意欲的であった。

③**まんのう町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会**（香川県）は、3 町村合併による一体化という設立のきっかけと、町のスポーツ振興の課題や体協とスポ少が協力体制でないという現状報告を受け、クラブ設立までに多くの難題があることを把握した。合併後の町の一体感を創り出していくため、変な先入観を持たず合併の経緯を知らない次世代の若い住民を巻き込んだ運営に取り組むよう努力するべきであるといった、助言者からのアドバイスでまとめられた。

④**楽 総合型地域スポーツクラブ船木設立準備委員会**（愛媛県）は、人口約 7,500 人の地域において、行政主導にて小中学校や公民館を活動の拠点とし、ニュースポーツを中心に教室を無料で実施してきたが、今後の課題としては自己財源の確保が求められる等の現状報告を受けた。クラブの理念と運営方針の共通理解、体育関係者の理解を得

ることが必要であること、様々な広報活動や地域の伝統芸能を取り込むこと、市議や行政、PTA関係者を運営スタッフに取り込むことで運営面、経営面を安定させることができるという助言者からのアドバイスでまとめられた。

○グループディスカッションまとめ○

最後に、地方企画班員にてまとめを行った。四国ブロック地方企画班長から、『地域の持つ問題点や文化、行事、歴史を掘り下げていくとクラブが地域で取り組むべきことが見えてくる、それは地域を元気づけるとともに「参加してみよう！スタッフとして協力しよう！助成しても良い！」ということに繋がる可能性がある、「創ることは見つけること」といったピカソの名言のように地域に根づく地域の宝物を必然的に見つけよう』とのまとめがあり、1日目のクラブミーティングは終了した。

<2日目>

○スポーツ交流○

会場内の体育館ではばたんカンフー、3B体操、ボルダリング、エアロビクスの4種目でのスポーツ交流が各講師の指導の元、行われ、参加者約120人で熱気あるものとなった。

○基調講演○

基調講演として、クラブリンク JAPAN 理事長の山中裕文氏に「総合型地域スポーツクラブの新たな可能性」をテーマにご講演いただいた。

全国3,300クラブの実情や自立に向かう中で、助成金の継続性、クラブ間での財政格差や世代交代の難しさ、モチベーションの低下等、不安を感じる問題提議がなされた。また、10年後に起こりうるクラブの3つの姿（第1：衰退・消滅するパターン、第2：クラブの合併・連携をするパターン、第3：クラブが企業化するパターン）の例示もあり、今後クラブが生き残る道も自覚させられた。他にも、現在は指定管理を受け自主運営出来ているクラブも将来の施設の老朽化を見据え、その対応策や次世代への新しい施設の考え方を構築してクラブを運営していく必要があるとの話もあった。

目指すべきは、「ONLY ONE」、すなわち、クラブのミッションを再確認し、地域資源を活用し、地域住民の存在感が自覚できるようなエリアマネジメントを実現すべきであり、それにはスポーツへの特化か、スポーツを超えた活動を目指すかを明確にし、クラブが担う役割として「地域づくり」の新たな公共を生み出し、地域密着した100年続くクラブとして、「夢を描き共有し常に新たな挑戦」を展開し続ける地域のパイオニア的存在を目指すべきだとまとめられた。

○ランチミーティング○

グループディスカッションに入る前に、ディスカッションのテーマ毎に4グループに分かれてのランチミーティングを行った。お弁当を食べながら和やかな雰囲気に参加者がクラブの現状や課題について自由に情報交換するもので、初めての試みであったが、ざっくばらんなトークが弾み、クラブ自慢や課題に対する質問に花が咲いた。

○グループディスカッション○

ランチミーティングに引き続き、4グループ（①地域密着型、②大学・地域・医療の連携、③都市型、④NPO 取得）に分かれ、テーマ毎のディスカッションを行った。

①地域密着型は一ノ谷スポーツクラブ（香川県）が情報提供を行った。一ノ谷は自治会を中心に活動する創設 15 年目のクラブで、スポーツや防災等を通して子どもから高齢者までが交流し、地域に根差す活動に補助金に頼らず取り組んでいる。情報提供者の石川氏は、「クラブの理念に忠実であること」「地域のリーダーは元気でなければならないこと」「自分が輝いてこそ人も地域も輝くこと」を熱く語った。参加クラブからは補助金に頼らなければ運営が困難であるという意見も出され、「人がいるから資金が集まる」のではなく、「資金が無いと人も置けない」という構図の中で、自己財源獲得や世代交代の方法、地域に特化する方法等、様々な議論が行われた。

②の大学・地域・医療の連携では阿南市総合型クラブ（徳島県）を代表して徳島大学の行實氏より、行政や大学、医療機関と総合型クラブが連携したメディカルフィットネスプロジェクトに関する情報提供が行われた。質疑応答では、連携団体個々の役割、経費の規模や財源確保の方法等に関する質問があり、クラブとして取り組める見通しについての議論が行われた。その後の意見交換では、財源や人、社会福祉協議会や保健センター等との連携、介護予防事業の受託、継続的実施の難しさ等の話題が上がった。最後に、医科学的データをクラブに対する信頼感や会員の参加意欲に結びつける等、今回の発表の積極的な応用に期待したいとの助言者からのアドバイスがあった。

③都市型では、西条中央スポーツクラブ（愛媛県）から「新しいカテゴリーの創造と新しいクラブの創造」をテーマに情報提供があった。西条中央は、「スポーツ+ α 」を軸とし、 α とは新しいカテゴリーの創造として、例えばサッカー教室で選手に英会話レッスンを必修化させる等、部活動や少年団等他クラブとの差別化を図り活動する例が挙げられた。また、種目協会や公民館等の各種団体とも連携し、歴史探索ウォーキング等、住民参加型のイベント開催にも取り組む等の事例もあった。意見交換では、地域のニーズに合わせたプログラムを大切にすること、子どもを対象にしたプログラムの工夫についての議論を行い、最後に、情報提供者の森氏より、地域の人々が集りまちづくりに取り組み、地域で夢を持つことは、子ども達も夢が持てることであり、一体となって楽しみや喜び、幸せを感じてもらえるような都市型の活動が目標である、とまとめられた。

④NPO 取得では、NPO 法人総合クラブとさ（高知県）が「クラブの新たな可能性」をテーマに情報提供を行った。情報提供者の田井氏からは、地域の主婦が現在 700 名

以上の会員と 20 を超す教室・サークル活動を維持できているのは、課題への素早い対応、活動の充実、地域と一体となること等を大切にしてきた結果であること、またこのクラブは地域のニーズに応じることにより、まだ発展できる可能性があるのだと報告された。意見交換では、財政面を中心にクラブの課題を出し合い、今後の取り組みで必要なこととして、男性会員の拡充や、地域の問題を調査し対応すること、またクラブを支える人の献身的な努力や合理的な対応が大切であること等が確認された。

【まとめ】

今回のクラブミーティングでは、2 日間を通して「自己点検→コミュニティ→社会貢献→地域づくり→自立→ONLY ONE」という総合型クラブのあるべき姿を参加したクラブが確認できたように思う。それは、クラブ関係者が何を大切に考えて取り組むべきなのか、自分たちが行う活動が地域社会での重要な活動として自覚できているかということでもある。

そして、四国の総合型クラブの発展を考え、このクラブミーティング開催中に、四国ブロック連絡協議会を立ち上げ、前向きに取り組むことが 4 県の合意で確認されたことは、大きな第一歩である。

「四国は一つ」を合い言葉に四国ブロックの連携をますます強くすべきだと考えさせられたクラブミーティングであった。

<写真>

